

授業科目名・形態	倫理と人間	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	渡 部 誠	開講期	1年後期	単位数 2

#### 【授業の主題と目標】

介護福祉士には、理論的根拠に裏打ちされた実践力のみならず、高邁な精神や研ぎ澄まされた感受性が必要となる。そのこと踏まえ、最初に専門性の基礎となる人間の理解をテーマとして扱う。その上で、介護の実践場面において人間の尊厳をどう確立し保持するのかについて学習する。また、自立、自律、人権、権利擁護などについてもその本義に実践論を交えながら学習を進める。これらを通じて、最終的には介護福祉士に必要な倫理の獲得と醸成を目指す。

#### 【授業計画・内容】

- 第 1 回 人間とその生命への畏敬
- 第 2 回 人間の理解とその方法
- 第 3 回 人間と尊厳
- 第 4 回 偏見と差別
- 第 5 回 尊厳の確立と毀損
- 第 6 回 尊厳の保持と介護実践
- 第 7 回 人権の歴史的経緯と社会背景
- 第 8 回 障害と人権
- 第 9 回 権利の擁護と侵害
- 第 10 回 人権の護持と介護実践
- 第 11 回 自立と自律
- 第 12 回 障害者の自立と自律
- 第 13 回 高齢者の自立と自律
- 第 14 回 福祉の価値と倫理
- 第 15 回 授業のまとめ

#### 【授業実施方法】

講義（演習形式を一部含む）

#### 【教科書等】

人間の理解（新・介護福祉士養成講座1 中央法規出版）

#### 【参考文献】

講義の中で適宜指示する

#### 【成績評価方法】

授業及び演習に臨む姿勢、提出課題、前期試験結果等の総合評価

#### 【学生へのメッセージ】

尊厳や自立という根本命題について、建て前論に終わらせず一つひとつの言葉に立ち止まりながら、授業を進めて行きたいと考えています。

授業科目名・形態	生活と経済	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	李 廷 珉	開講期	1年後期	単位数 2

#### 【授業の主題と目標】

人々が共通の目的を達成するために集まり、共に行動するとき、そこに組織が成り立つ。経営学とは組織を構成する個々人の問題や、組織の仕組み、組織が社会的にどのような役割をはたすのかということを考える学問である。

この授業では、企業を主なモデルとして発展してきた経営理論を紹介しながら、これらの理論が社会福祉や医療の分野にどのように応用できるかを考え、福祉団体や病院が抱える経営上の問題現象について分析し、現実的な解決方法について討論する。

#### 【授業計画・内容】

- |        |               |
|--------|---------------|
| 第 1 回  | 福祉と経営         |
| 第 2 回  | いろいろな組織の捉え方   |
| 第 3 回  | 組織のなかの個人      |
| 第 4 回  | 個人と組織とのかかわり合い |
| 第 5 回  | 集団の機能と組織      |
| 第 6 回  | 組織におけるリーダーシップ |
| 第 7 回  | 組織文化 1        |
| 第 8 回  | 組織文化 2        |
| 第 9 回  | 知識創造企業（組織）    |
| 第 10 回 | 社会福祉と経営 1（使命） |
| 第 11 回 | 社会福祉と経営 2（顧客） |
| 第 12 回 | 社会福祉と経営 3（価値） |
| 第 13 回 | 社会福祉と経営 4（成果） |
| 第 14 回 | 社会福祉と経営 5（計画） |
| 第 15 回 | 社会性と効率性       |

#### 【授業実施方法】

講義

#### 【教科書等】

ドラッカー名著集 4 『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007年。

#### 【参考文献】

千葉正展『福祉経営論』ヘルスシステム研究所、2007年。

国際医療福祉大学医療経営管理学科『医療・福祉経営管理入門』国際医療福祉大学出版会、2003年。

#### 【成績評価方法】

出席（発言カード使用）と試験で総合評価。

#### 【学生へのメッセージ】

医療・福祉経営に関する基礎理論と実践に基づく具体的な知識や手法を学習する機会を通じ、皆さんが医療・福祉の世界で大きく羽ばたくことを応援したいと思います。

授業科目名・形態	人間関係論	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	高 野 隆 一	開講期	2 年後期	単位数 2

※看護学科必修

### 【授業の主題と目標】

人間関係において、相手を理解し受け入れていくために必要な基本的な態度やコミュニケーションのあり方、そして人間関係に関わる対人感情や対人認知の問題を理解し、良好な人間関係を維持できるようにすることが目標である。講義終了時には、対人援助職として学習しておくべき基本的態度および必要なコミュニケーション技法について十分に習得することを目標とする。

### 【授業計画・内容】

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 回  | 援助的人間関係において必要な基本的な態度 (1) 「無防衛」、「共感」                         |
| 第 2 回  | 援助的人間関係において必要な基本的な態度 (2) 「受容」                               |
| 第 3 回  | 援助的人間関係において必要な基本的な態度 (3) 「熱意」、「間」、そして「心理的距離」                |
| 第 4 回  | 援助的態度を実現するための具体的な技法 (1) 「促しの技法」、「繰返し<br>の技法」、「要約の技法」        |
| 第 5 回  | 援助的態度を実現するための具体的な技法 (2) 「解釈の技法」、「共感の<br>技法」、「保障の技法」、「沈黙の技法」 |
| 第 6 回  | 援助的な態度を実現するための具体的な技法 (3) 「明確化の技法」、「質<br>問の技法」、「対決の技法」       |
| 第 7 回  | 非言語的コミュニケーション   |
| 第 8 回  | 対人感情 (1) 好き嫌いの条件について  |
| 第 9 回  | 対人感情 (2) 条件付きの好き嫌いと無条件の好き嫌い                                 |
| 第 10 回 | 対人認知と自己認知 (1) 印象形成のプロセスおよびステレオタイプによる<br>認知                  |
| 第 11 回 | 対人認知と自己認知 (2) 自己評価と他者評価                                     |
| 第 12 回 | 対人認知と自己認知 (3) 他己評価による自分自身の理解                                |
| 第 13 回 | 主張行動と同調行動について   |
| 第 14 回 | 攻撃行動 (1)  |
| 第 15 回 | 攻撃行動 (2)  |

### 【授業実施方法】

講義

### 【教科書等】

諏訪茂樹 「援助者のためのコミュニケーションと人間関係」 建帛社

### 【参考文献】

必要な場合は、プリント資料を配布する

### 【成績評価方法】

定期試験と出席状況の両方を考慮し、評価する

### 【学生へのメッセージ】

良好な人間関係を維持していくために必要で重要な基本的知識を学びます。

授業科目名・形態	認知症の理解 I	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	工藤 英明	開講期	1年後期	単位数 2

### 【授業の主題と目標】

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習をする。

「認知症とはどのような病気か」を主題目として、認知症を取り巻くわが国の状況、認知症の定義やケア実施の理念、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、医学的側面からの認知症発症の原因や症状について学習する。授業の到達目標は、①認知症高齢者を取り巻くわが国の状況について理解する。②認知症ケアの歴史や理念など「ケア」についての基礎的知識を習得する。③認知症を病気としてとらえ、医学的側面から見た認知症の理解をすることである。

### 【授業計画・内容】

- |        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 第 1 回  | 認知症の定義                           |
| 第 2 回  | 認知症高齢者の現状と今後                     |
| 第 3 回  | 認知症ケアの歴史                         |
| 第 4 回  | 認知症ケアの理念                         |
| 第 5 回  | 認知症に関する行政の方針と施策                  |
| 第 6 回  | 認知症による障害（記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認その他） |
| 第 7 回  | BPSD（認知症の行動心理的症狀）について            |
| 第 8 回  | 認知症の原因となる主な病気の症状の特徴              |
| 第 9 回  | 認知症と間違えられやすい症状                   |
| 第 10 回 | 若年性認知症                           |
| 第 11 回 | 病院で行われる検査、治療の実際                  |
| 第 12 回 | 脳病変の進展過程と認知症発現の関係                |
| 第 13 回 | 認知症予防について（危険因子）                  |
| 第 14 回 | 認知症予防対策について                      |
| 第 15 回 | 認知症改善の各種療法について                   |

### 【授業実施方法】

講義

### 【教科書等】

新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解 中央法規出版（株）

### 【参考文献】

### 【成績評価方法】

出席状況及び試験結果

### 【学生へのメッセージ】

授業科目名・形態	臨床心理学Ⅱ	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	成 田 猛	開講期	4年後期	単位数 2

#### 【授業の主題と目標】

臨床心理学の学習には数多くの事例にふれてみる事が大切である。事例を検討することで、表面に現れている症状そのものよりも、その症状の背景に潜んでいるものが見えてくる。それが実際の心理臨床にはとても役にたつこともわかってくる。本講義では、実際の事例とビデオをみながら、それぞれの症状（問題）を詳細に解説する。このことにより受講者が、症状（問題）の背後には独自の病理が潜んでいることを理解できるようになる。

#### 【授業計画・内容】

第 1 回	診断的分類・病態水準
第 2 回	母性剥奪症候群
第 3 回	神経症的習癖
第 4 回	不登校
第 5 回	家庭内暴力
第 6 回	非行
第 7 回	自傷行為
第 8 回	摂食障害
第 9 回	薬物依存
第 10 回	同一性障害
第 11 回	人格障害（1）
第 12 回	人格障害（2）
第 13 回	気分障害（1）
第 14 回	気分障害（2）
第 15 回	その他の問題

#### 【授業実施方法】

基本は講義形式。必要に応じてビデオ等を使用。

#### 【教科書等】

指定しない。資料はそのつど配付。

#### 【参考文献】

必要に応じて紹介。

#### 【成績評価方法】

出席およびレポート提出による総合評価。

#### 【学生へのメッセージ】

就職すれば事例検討会はどこの職場でも行われる。この世界では事例はそれほど重要視されている。それは事例を検討することによりどう援助するかの方向がみえてくるからである。事例を通して見えてくるものがあることを学習してみませんか？ 将来きっと役に立つと思います。